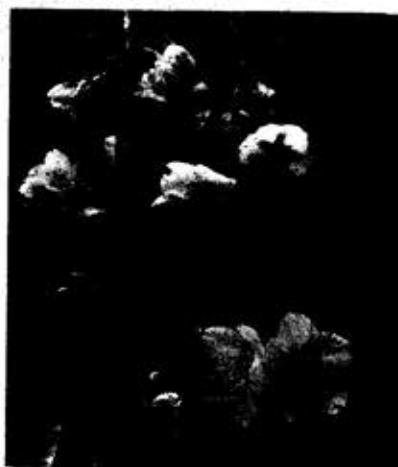


「あたみ桜」で都市間交流を 年末から新春に開花する早咲き種



育て始めてから6年になる「あたみ桜」と古屋さん

新しく植えた横須賀市と
南足柄の古屋さん



早くも桜の花が開いている

早咲き種の「あたみ桜」を有効活用して、観光振興や自治体同士の交流促進に結びつけよう、南足柄市塚原の農園経営・古屋富雄さん(62)が奮闘している。最大の特徴は、年末または年明けから咲き始めるという開花の早さ。神奈川県内では、気候の温暖な横須賀市との間ですでに連携が進んでいる。残るは、あたみ桜の本家ともいえる静岡県熱海市だ。

古屋さんが所有するあたみ桜は約70本。塚原の丘陵地(箱根外輪山ふもと)に植栽され、山ふもとに植えられ、今季は暖冬の影響で開花が特に早く、昨年末の時点での数輪咲いた。香りは白に近いピンクで、サイズはソメイヨシノよりも小さめ。香りはほとんどないが、「春めき」を地方自治体や各種団体に寄贈したり、購入してもらつたりして、花による観光振興や交流などを推進。あたみ桜がある程度の大きさ(6年生、高さ約5m)に育つて出掛けた際、川沿いや山沿いに植えられている姿を目にした。古屋さんは「こんなに早く咲く桜は見たことがない」と驚いた。数年か

何よりも、早く咲くのが売り。早咲き有名な河津桜よりも少し先に開花する。

約10年前に熱海市へ出掛けた際、川沿いや山沿いに植えられていて、古屋さんは「新しく桜を植えた横須賀市と、本家である熱海市との交流が広がればうれしい」と話した。同じ桜を持つ2つの市が花による姉妹都市提携

けて苗木を入手し、造園業者の力も借りて本数を増やした。古屋さんは、自らが品種登録した早咲き桜「春めき」を地方自治体や各種団体に寄贈したり、購入してもらつたりして、花による観光振興や交流などを推進。あたみ桜がある程度の大きさ(6年生、高さ約5m)に育つて出掛けた際、川沿いや山沿いに植えられていて、古屋さんは「新しく桜を植えた横須賀市と、本家である熱海市との交流が広がればうれしい」と話した。同じ桜を持つ2つの市が花による姉妹都市提携

12月に公園敷地内へ植樹したばかり。今後の大きな目標は、あたみ桜を観光資源として長く活用していく熱海市との連携強化。

自身の農園で育つているあたみ桜を眺めながら、古屋さんは「新しい取り組みを始めたく咲くこの桜を活用したい」と思い立った。気候が暖かいほど開花も早まる

ことから、海に近く、温暖な横須賀市に普段木を提供した。県は県立公園バーチセセンターの才

を結んだり、新しい観光名所づくりのため苗木を分け合つたりと、さまざまな構想が思い浮かぶという。熱海市では、あたみ桜を「日本でも最も早咲きの桜」として大事に扱い、季節の観光イベントを開くなど広くPRしている。1965年にあたみ桜と命名し、市制施行40周年の77年に市に指定した。今年23日からは、糸川遊歩道(同市銀座町)を会場に「あたみ桜まつり」が開かれる。花期は例年1月から2月中旬まで。